

牛群検定通信 No74

～夏季こそ十分な飲水を！～

都府県の乳牛にとって、試練となる夏がまたやってきました。牛群検定を上手に活用して、乗り越えてください。

1 暑熱対策

暑熱対策は、大きく3通りあります。

(1) 牛を暖めない

日差し対策、屋根の加工

(2) 牛を冷やす

送風扇、ミスト、毛刈り、敷料

(3) 牛の発酵熱を押さえる

飼料給与の工夫

これらを効果的に組み合わせて実践することが大切です。送風扇を回しているからこれで万全というものではありません。また、その他にも、刺しバエ、飼料カビ、酪酸発酵サイレージなどを出さないことも重要です。

2 夏バテした牛群の検定成績

暑熱対策が十分でない場合、検定成績表に現れる特徴は、次の通りです。

(1) 乳量の低下

(2) 乳成分値の低下、

(3) 体細胞数値の増加

(4) 授精頭数の減少

これら全部を暑熱対策に活かすことが望ましいのですが、ここでは乳量に注目してみます。乳量の減少は、夏季に最もよく見られる現象で、食欲の減退が主な原因と言われています。更にその食欲減退の原因には「十分な飲水」が出来ないことが潜んでいることが多いようです。夏季は、発汗等により通常より多くの水分を必要としているので、給水は暑熱対策の大きなポイントです。

3 観察のポイント

乳量の減少が検定成績表で確認された場合は、牛舎での糞尿の状態を観察してください。水分が足りない場合は、糞が硬く、尿が少なくなる傾向が現れます。この場合、牛群全体での成績推移と観察も重要ですが、乳量を落としている個体を特定して、観察することも重要です。

繫留牛舎のウオーターカップであれば、水の出の悪いものや、敷料の詰まったものなど無いかひとつひとつチェックします。産次を重ねた牛と初産牛が1つのウオーターカップを共用していると、初産牛は水が飲めないことが多いので、離すようにしてください。

フリーストールで水槽を使っている場合は、水槽の汚れをチェックします。水槽のアオコなどは定期的に清掃します。牛は汚れた水は飲もうとしません。また、水温は17～27度を好みますので、冷たい水にこだわる必要はありません。

ウオーターカップや水槽のチェックとしては、高さや水圧、水流、排水、スペースなど施設的なチェックも必要となります。専門の指導員の方と一緒にチェックしてみてください。